

町議会とあなたを結ぶ

議会だより

# しらおい、186

定例会11・12月会議号

2024年1月31日発行



議会だより  
(町ホームページ)



議会フェイスブック

P 2 定例会12月会議一般質問項目 / 定例会3月会議予定

P 3～14 定例会12月会議 12人の議員が一般質問

P 15 令和5年 定例会・委員会出席状況

P 16 定例会11・12月会議報告 / 編集後記

北海道にある、元気まち



しらおい

# ～ 令和5年 第2回定例会 12月会議 一般質問 ～

<b>広地紀彰議員</b> 3ページ ① 住み続けられる白老について ② 町民が活躍できる白老の在り方について	<b>田上治彦議員</b> 9ページ ① 地域医療・地域福祉について ② 小中学校における熱中症対策について
<b>氏家裕治議員</b> 4ページ ① 住み続けられるまちづくりと公共施設等の整備について ② 地域の課題に対する町の活性化対策について	<b>貳又聖規議員</b> 10ページ ① 幸せ感じるまちについて
<b>長谷川かおり議員</b> 5ページ ① 世代をつなぐまちづくりについて ② 新たな町立病院の医療体制構築へのアプローチについて	<b>前田弘幹議員</b> 11ページ ① 一次産業全般について ② 地域活性化イベントについて ③ 教育全般について
<b>水口光盛議員</b> 6ページ ① 大塩町長の公約の進捗状況について ② 増税されている固定資産税について	<b>森山秀晃議員</b> 12ページ ① 水産振興について
<b>西田祐子議員</b> 7ページ ① 町民の暮らしを守る ② 元気まち情報館について	<b>森哲也議員</b> 13ページ ① 持続可能な公営住宅及び公共施設等の推進について
<b>飛島宣親議員</b> 8ページ ① 農業振興の傾向と多面的な魅力について ② 白老の魅力発信の在り方について	<b>佐藤雄大議員</b> 14ページ ① 未来を見据えた白老町独自のまちづくりについて
* 質問時間は1人45分以内 (答弁の時間を含まない) * 一問一答方式 (時間内で何度でも再質問が可能)	

## 定例会3月会議の予定

- 日時 (いずれの日も10時から)
- 2月20日(火) 議案説明会
  - 2月21日(水) 議案説明会
  - 3月7日(木) 本会議  
(執行方針説明・一般議案)
  - 3月8日(金) 本会議(代表質問)
  - 3月11日(月) 本会議(一般質問)
  - 3月12日(火) 本会議(一般質問)
  - 3月13日(水) 本会議(一般質問)
  - 3月14日(木) 予算等審査特別委員会
  - 3月15日(金) 予算等審査特別委員会
  - 3月18日(月) 予算等審査特別委員会
  - 3月19日(火) 本会議  
(予算審査報告・一般議案)
- 会場 議会議事堂(役場2階)

\*日程は変更になることがあります。  
 詳細は議会事務局へお問い合わせください。  
 Tel82-6620

## 議会の動き

- 【11月】
- 14日 第2回定例会11月会議(第1号)  
 広報広聴常任委員会
  - 24日 議会運営委員会  
 第2回定例会11月会議(第2号)  
 全員協議会(第6次白老町総合計画基本  
 計画見直し(案)について)
  - 28日 議会運営委員会  
 広報広聴小委員会
- 【12月】
- 8日 議案説明会  
 議会運営委員会
  - 12～15日 第2回定例会12月会議
  - 12日 議会運営委員会  
 全員協議会(下水道事業会計における  
 消費税及び地方消費税の更正について・  
 介護保険料の賦課更正について)
  - 13日 総務文教常任委員会
  - 14日 産業厚生常任委員会
  - 15日 議会運営委員会

## 問 町民の声に寄り添う デマンド交通改革が必要では

答 可能な限り寄り添って  
見直しを進めていく



広地紀彰議員

問 停留所の増設や運行経路の見直し、通院に便利な運行など、町民の声に寄り添うデマンド交通改革が求められているのでは  
副町長 幅広く声を聞きながら、可能な限り要望に寄り添って見直しを進めていきたい。

問 交流促進バスぐるぽんが空っぽなのは問題ではないか

答 弁 導入当時はコロナの影響もあり利用者は少なかったが、着実に増加している。利用者の声を聞き利用促進に努めたい。

問 令和4年度介護労働実態調査結果では、訪問介護員などの不足が顕著となっている。介護現場は危機的状況ではないか

答 弁 新規の利用者を受け入れられないなどサービスへの影響が出ており、深刻な状況である。

問 町民の半分が高齢者であり、今後さらに要介護者の増加が見込まれる中、逆にサービス提供者が減少している。町民の生活を守るため、まちづくりの視点



周遊利用の増加を期待 交流促進バスぐるぽん

から介護人材の確保を支援しなくては崩壊する危機ではないか  
町長 本日に介護人材不足であると理解しており、人手確保を下支えしていかなくてはならないと常日頃から認識している。

問 令和2年12月に全会一致で採択された陳情第1号元気号路線延伸の処理経過は

答 弁 活性化協議会でも議論したが実現していない。官民一体で役割を踏まえ取り組みたい。

## 問 高齢者大学校舎の 解決はいつか

答 本年度中に方向性を  
具体化する

問 高齢者大学校舎の老朽化が著しい。望ましい学習環境への機能移転に向けた抜本的な解決、移転の決断はいつするのか  
教育長 現校舎の改修は無理という判断であり、今年度内には方向性を具体化したい。

問 移転により通学の足の確保が懸念される。創立50周年の節目をただ記念にするのではなく、発展させるための取組の一環として位置づけが必要ではないか  
教育長 移転は利便性にも配慮し、令和の時代にふさわしい高齢者大学を作り上げていきたい。  
問 まちの財産である町民の健康と活動支援の具現化の考えは  
町長 活力あふれるまちづくりに向け取組を進めたい。

## 問 緊急通報システム 運用改定に向けた進捗状況は

答 対象者拡大の方向で  
設置要綱を令和6年4月改定



氏家裕治議員

問 高齢者や障がい者の方が安心して住み続けられるまちづくりのため、緊急通報システムの運用改定に向けた進捗状況は

町長 緊急通報システムの設置対象者を拡大する方向で、令和6年4月の改定に向け要綱の見直し作業を進めている。

問 認知症における徘徊対策の現状は

町長 今年度、認知症高齢者等SOSネットワーク事業の見直しを行い、認知症高齢者の徘徊の捜索時に関係機関との連絡が円滑に行えるよう、情報発信や事前登録及び緊急連絡の体制を構築した。また、認知症の方が加入される個人賠償責任保険の保険料に対する助成を今年度より開始した。このほかGPS貸出事業を継続し、令和6年度には徘徊高齢者捜索模擬訓練を実施し、捜索態勢の強化につながる効果的な通信技術の活用も検討していく。

問 各公民館及び児童館等の備品の更新状況は

町長 公民館や児童館等の各公共施設においては、それぞれの機能を果たすために必要な設備や備品を配置しているが、施設の老朽化とともに設備や備品においても経年劣化が見られる場合もあることから、各施設管理者における日常点検において、故障や不具合等がある場合は、適宜、修繕や更新を行っている。



緊急通報システムの設置は生活の安心につながる

問 地域公共交通の  
現状と課題は

答 全てのニーズには  
対応できない状況

問 地域公共交通における移動困難者対策の現状と課題は

町長 本町では、平成6年度に福祉バスとして「元気号」の運行を開始し、14年度には地域循環バス化した。さらに29年度にデマンドバス「カムイ号」、令和2年度に交流促進バス「ぐるぼん」を導入するなど、公共交通の充実に努めてきた。一方で、自家用有償運送事業は、原則として交通空白地帯に限定され、民間事業者を含めた協議会の合意に基づいて運行していることから、現下の多様なニーズの全てには対応できない状況にあることが課題であると考えている。

## 問 奨学金返還支援制度の創設は



長谷川かおり議員

## 答 来年度、前向きに進める

**問** 若い世代に妊娠・出産に関する正しい知識を伝え健康意識を高めるプレコンセプションケアの必要性について町の見解は

**町長** 女性やパートナーを対象に将来の妊娠のための健康管理を促す取組で、保健・医療・教育などの分野と連携を図りながら推進することとされ、妊婦・出産と産後の母子の健康や生活面の相談に寄り添う切れ目ない支援に連動するものと認識している。

**問** 少子化対策の一環として普及啓発に取り組む考えは

**答** 弁 プレコンセプションケアへの認識がまだ低い状況であり、将来の妊娠と健やかな出産につながるため、広報やホームページを通じ意識の醸成を図りたい。

**問** 大学生等通学費助成制度の利用状況は

**町長** 7月に募集を開始し7件の申請があった。年度途中の制度開始となったため次年度以降の活用に向け改めて周知を行う。



正しい知識を伝える取組 中学校での性教育講話

**問** 助成範囲を拡大する考えは

**答** 弁 まずは札幌圏に進学する経済的負担の課題解決に取り組み、推移を見守りながら様々な検討を進めていく。

**問** 奨学金返済に苦しむ若者の負担軽減と地方定住を促すための奨学金返還支援制度の創設は

**町長** 町内事業所の人材確保、労働者不足の解決と若者が白老に定着するきっかけづくりのため、来年度は前向きに進めたい。

## 問 新たな町立病院の公設民営の考えは

**答** 安定的な地域医療確保

のため慎重に検討したい

**問** 新たな町立病院の医療体制構築へ向け、地域医療の核となる総合診療医についての見解は

**町長** 総合診療医の先駆的な取組事例の検証や医師会等への相談など招聘活動を展開している。

**問** 北海道家庭医療学センターでは総合診療医を育成し働き方改革に対応して医師を配置している。町民の命を守る持続可能な医療体制として同センターに運営を託す公設民営、事業委託の方向性について町の見解は

**町長** 医師の安定的確保は町民の安心感、不安の解消になる。病院改革は公約の重点事項であり、建物が新しくなっても中身が変わらないと町民に寄り添う病院にはならない。取組を進めたい。

# 問 給食費の完全無償化と 住環境の町民満足度の改善策は



水口光盛議員

## 答 事業効果等を検証しながら 取り組んでいく

問 来年度の学校給食費の無償化について、完全無償化の実現に向けてどのような検討を進めているのか

町長 公約として、本年度から学校給食費の3学期分の無償化を実施することとし、来年度も引き続き3学期分の無償化を予定している。事業効果等を検証しながら、完全無償化の実現に向けて検討を進める。

問 人口減少抑制策として住環境の改善に取り組んでいるが、住環境の町民満足度は年々低下しており、予算を倍増し、迅速に町民の満足度を高める取組が必要と考える。また、予算だけではなく職員を増やしてマンパワーを確保することで、町民満足度の改善を図る必要があるのではないか

町長 町民生活に密接に関係する町道・公園などの生活インフラや町営住宅の整備は、町内各地区において町道補修事業や公

園の遊具更新事業、町営住宅の改修事業等に取り組んでいる。公共施設を含めたインフラ整備は、町が直面する重要な課題であり、様々な財源を活用しながら公約として計画的に進めている。町民満足度の改善には、予算とマンパワーとが連動した事業展開が必要であると認識しており、効果的・効率的な行政運営を進めることで、町民満足度の向上に努めていく考えである。



学校給食費完全無償化の早期実現を

## 問 増税されている固定資産税 の超過税率を戻す考えは

答 超過税率は安定的な

自主財源で必要不可欠

問 過去の財政危機の際に、納税者（町民・企業・町外の所有者）に負担をお願いしている固定資産税の超過税率を、標準税率に戻す考えは

町長 昨今の多様化する行政需要に対応する上で、安定的な自主財源の確保が必要不可欠である。町の財政状況は改善傾向にあるものの、健全化判断比率や基金の積立額は、道内の他の自治体と比較すると依然として低い水準にあることから、改善の余地はあるものと捉えている。

将来にわたる持続可能な行政運営と多様化する行政需要に対応する上でも、基金の積み増しは必要であり、超過税率は継続する考えである。



西田祐子議員

## 問 非課税世帯への 7万円の支給予定日は

答 1月下旬頃を予定し  
スピード感を持って進める

問 非課税世帯と子育て世帯の  
現状と課題、町独自の対策は

町長 3万円を支給する物価高騰対策低所得世帯支援事業は、令和5年度分の市町村民税非課税世帯の世帯主を対象として、11月末までに3379世帯に支給を終えている。このたびはさらに7万円を追加し、合計10万円の支援を行うものである。

ひとり親世帯以外の子育て世帯生活支援特別給付金事業は、児童手当受給者などの養育要件や家計急変者などに対し給付するもので、11月末現在106件530万円の給付となっている。町民生活の家計への負担が増している実情を踏まえ、本町独自の対策に取り組んでいく。

問 1世帯7万円の追加支給はいつ頃を予定しているか

答弁 補正予算議決後速やかに対象者を確定し、年内には案内したい。前回3万円受給された方には申請不要のプッシュ型支



冬期は閉鎖されている元気まち情報館

給を考えているが、一定期間を設け受給する意思を確認してから振り込む予定としている。支給は1月下旬頃を予定しており、スピード感を持って進めたい。

問 ウヨロ川・ブウバツ川の課題に対する町の見解は

町長 被害を最小限とするための取組のほか、北海道に対しても町民の安全安心のため整備計画に基づく多角的な治水対策を引き続き強く働きかけていく。

問 元気まち情報館で

イベント実施の考えは

答 賑わいづくりなど

有効に活用したい

問 四季彩街道の交通量と、元気まち情報館の課題、インターネット環境の整備状況は

町長 令和3年の北海道開発局の調査では、秋期の24時間交通量は2915台となっている。元気まち情報館は無人のため問い合わせができないことや、冬期は閉鎖するため情報を発信できないことが課題と捉えている。

答弁 インターネット環境は整備されていない。

問 森野地区は民間のレストランやキャンプ場で賑わっている。ファーマーズマーケットや青空市などイベント実施の考えは

答弁 森野地区の観光入込数は令和4年度で4万3千人。賑わいづくりなど有効に活用したい。

## 問 近年の耕種農業における作付状況は

答 出荷総額は年々増加傾向にある



飛島宣親議員

問 町内での近年の耕種農業における作付状況や課題は

町長 耕種農業を営む農家戸数は、個人2戸、法人1戸。作付総面積17・2ヘクタールにおいて16品目の野菜を生産し、主に道内市場に出荷。出荷総額は年々増加傾向にあり、新たな農業形態が構築されている。国等の支援制度を積極的に活用し、生産基盤の拡充に努めているが、労働力不足や物価高騰による生産コストの増額が課題である。

問 農業施設整備や農民生産への支援の状況と成果は

町長 生産力・収益力向上の手段である農業施設の整備やスマート農業の導入などには初期投資に多額の費用を要するため、積極的な国等の支援制度の活用が重要。直近5か年では2戸の農家が国の支援制度を活用して肉用牛舎や園芸施設を整備しており、支援制度が生産基盤の確立に大きく寄与している。

問 農業と福祉の連携による効果とまちづくりの関係性は

町長 農業分野の課題である労働力不足と障がい者や高齢者等の健康や生きがいづくりをつなぎ相乗効果を生む取組で、町内でも連携が見られる。社会福祉法人が農業に参入するなど経営規模の拡大も見受けられ、福祉人材の積極的活用は一次産業の底上げや地域共生社会の実現にも寄与する重要な取組である。



冬季に無加温ハウスでホウレンソウを栽培

問 白老の魅力発信の在り方

PRの実績と成果は

答 特産品のPRなど

魅力発信に努めている

問 近年のイベント参加状況と課題は

答 近年実施されていないが、白老牛肉まつりが代表的なイベントである。ほかに東胆振物産まつり、札幌オータムフェスト、北海道商品取引商談会、姉妹都市交流として津軽の食と産業まつり、仙台青葉まつり、仙台・宮城の味と技フェア等に参加している。朝市や夕市、観光関連、移住定住関連、ウポポイ・アイヌ関連のイベントでは特産品のPRを行い、多くのお客様に来ていただいている。一方、イベント会場までの足の確保や広く周知するための方法が課題となっている。また、イベントを継続していく中で、マンネリ化させないことが大切と捉えている。





田上治彦議員

## 問 町が目指す介護医療院とは

### 答 医療と介護のサービスを併せ持った生活施設

**問** 令和7年5月に開院予定の町立病院に介護医療院が併設されるが、町が目指す介護医療院とはどのような施設か

**町長** これまでの在宅復帰に向けた中間施設に該当する介護老人保健施設とは異なり、医療が必要な要介護者の長期療養を可能とする生活空間であり、高齢化率の上昇が著しい本町にとって、介護医療院の開設により、医療と介護の一体的サービスの充実化と拡充を図る効果が期待できる。

**問** 介護医療院の施設基準は

**町長** 医療を内包した生活施設としての機能を併せ持つことを目的に、療養室の面積基準やプライバシーに配慮した環境と適正な専門職の配置が求められる。

**問** 町内のケアラーの現状とケアラーとその家族を地域社会全体で支える取組は

**町長** 本町では支援が必要な児童生徒を特定できる状況にはな

いが、教員によるきめ細かい観察や支援が必要であり、18歳未満のヤングケアラーについては、相談支援や学校と関係機関が連携しながら学習や生活への早期支援を行うこととしている。少子高齢化が進みケアラーの増加が予測され、その家族を地域社会全体で支える仕組みはまちづくりに必要不可欠であり、相談しやすい体制づくりや地域住民への情報発信を行っていく。



プライバシーへの配慮が求められる介護医療院の居室

## 問 小中学校の

### 熱中症対策は

**答** 児童生徒の健康を

守る取組を進める

**問** 今夏の暑さに伴う小中学校や児童館など子供が集う施設における熱中症対策は

**教育長** 小中学校では、服装の軽装化やこまめな水分補給などの予防措置を行うとともに、普通教室には扇風機やサーキュレーターを、保健室にはスポットクーラーを設置し、学びの環境の整備に努め、暑さ指数の高い状況時には下校時刻の繰り上げや体育、部活動を中止している。児童館では、扇風機での対応のほか動きのある遊びを避けるなど安全確保に努めている。保護者や教職員等からも冷房設備の設置を望む声もあり、引き続き児童生徒の健康を守る対策の取組を計画的に進めていく。

## 問 白老中央生活館（大町）の 今後の利活用予定は

答 令和8年度まで利用を許可し  
閉館、解体する



貳又聖規議員

問 白老中央生活館の年間利用実績と地域コミュニティの活動拠点としての評価は

町長 令和4年度はアイヌ関係団体以外にも文化、軽スポーツ等多様な目的で延べ3410名に利用され、地域において町民活動を支える施設として貢献していると考えている。

答 利用割合は、アイヌ関係団体が15%、残り85%は一般の皆さんの利用である。

問 白老中央生活館の今後の利活用についての考えは

町長 令和8年度まで利用を可能とし、当該年度をもって閉館、解体する予定である。

問 町の憲法である自治基本条例には、町民と情報共有しながら、しっかりと対話するとある。生活館の統合は、町の都合の一方的なものと思える。白老中央生活館を用途変更し存続させてほしいという町民の声があるが、町の考えは

町長 指摘のとおり説明不足があったかもしれないが、地域住民の理解を得て合意形成を図りその方向性に導いたと認識している。今後は、公共施設等総合管理計画に基づいて現在の公共施設の3割減を目標として適正配置を進めていかなければならない。

副町長 東町福祉館のときも同様に残したいという方がいた中で、町もなかなか決断できずに

副町長 東町福祉館のときも同様に残したいという方がいた中で、町もなかなか決断できずに



町民活動を支える施設「白老中央生活館」

ずるずるといった経緯がある。公共施設等総合管理計画は、議員の皆様のご承認も得てできた計画であり、令和8年度以降存続させることはできない。

問 熱中症の搬送件数は、令和4年度は6件、令和5年は38件となった。冷房設備の整備は、教育委員会では、保健室や教室への設置となるが、防災の切り口では避難所として体育館に設置できる可能性がある。国の支援策の活用に向けて、役場内の各課横の連携で知恵を絞ることが重要と考えるが

答 防災の観点から避難所の防災計画を見直して、大型扇風機等による対策などを考えたい。

問 年々厳しさを増す暑さ対策として、保育施設への冷房設備整備の考えは

町長 保育施設には、各園の要望や補助金などの確認を実施し、設置に向けた準備を進めている。

## 問 生産向上のための共同利用施設における公的な整備は

答 関係各所と協議・連携し  
今後も検討していきたい



前田弘幹議員

問 後継者問題をどのように考えているか

町長 家族経営における事業継承の問題であると認識しているが、直近5か年における事業継承の件数については、農業で3件、水産業で10件となっている。本町の基幹産業である一次産業の後継者不足は、経営規模の縮小や廃業を招き、地域活力の低下につながることも重要な課題として捉えている。

問 生産向上のための共同利用施設における公的整備の考えは

町長 後継者不足の進行や物価高騰の影響からより厳しい経営状況が想定される中、持続可能な一次産業を確立するためには、施設や機械等を共同利用し、地域全体で生産効率の高い経営体制を目指すことが重要である。

答弁 現在、畜産業では白老牛改良センターのほか堆肥舎が、水産業では荷捌き所、活魚水槽、製氷機が共同利用施設として使

われている。今後は離乳後の子牛を育成するキャトルセンターの設置等、国の事業を活用しながら整備できないか広域農協と協議・連携し検討していきたい。

問 燃料や飼料高騰の影響は

町長 昨今のウクライナ情勢や円安の影響から、燃料や飼料等の生産資材の価格高騰が経営を圧迫している状況である。

答弁 来年度に向け、どのような支援が可能か検討中である。



生産向上のため共同利用施設の公的整備が望まれる

問 イベント時の地域公共交通の運行は

答 可能な範囲で検討

問 ポロトミントラを活用したイベントの開催状況は

答弁 今年度はポロトミントラフェスティバル等を4日間開催し、来場者は6366人である。

問 イベント時における地域公共交通の運行は

町長 これまで町は多様なイベントの中で臨時バスやシャトルバスを運行してきた。現在、町が運行している元気号、ぐるぼん、カムイ号については、イベントに合わせた運行は実施していないが、町内の様々なイベントにおける移動手段の確保は重要である。今後は道路運送法や地域公共交通の活性化及び再生に関する法律など、内容を精査し可能な範囲で運行できるように努めていく。

## 問 岸壁整備と 水産資源確保の方針は

答 関係組合と協議を重ねる、  
町としても挑戦をしていく



森山秀晃議員

問 漁港区の狭隘化を解消するための対策は

答 弁 以前からいぶり中央漁業協同組合とも協議を重ねているが、ハード面の整備等解決策がなかなか見いだせない状況で、非常に難しい課題と捉えている。

問 エプロン、繫留用ボラードや車輪止めの整備計画は

答 弁 白老港維持管理計画書に基づき各施設の点検を実施している。応急処置は町として行っているが、全面的な改修となると国も関わってくるので、国に要望していきたい。

問 屋根付岸壁の設置を求める声があるが検討状況は

町長 現在、島防波堤の建設を実施しており、完成後は漁港区の整備に着手できるよう漁組と協議を行っている。屋根付岸壁の整備については、岸壁自体の老朽化も進行している状況のため、引き続き関係団体との協議を重ねていく。



苫小牧港の屋根付岸壁

屋根付岸壁の設置を求める声は多い

問 未来につながる水産資源の確保に向けた、養殖事業の推進方針は

答 弁 国の水産基本方針でも天候に左右されない養殖事業を掲げている。栽培漁業に力を入れてきたが、漁獲高は全体の5%ほどであり、漁家所得の安定には今まで行っていないことにチャレンジする必要があると考える。漁組と相談をしながら、養殖事業の検討を進めていきたい。

問 水産業の活性化のために全国へのアピールとブランド化が必要と考えるが

答 弁 ふるさと納税の返礼品の種類を増やすなど全国へのアピールに努めていく。  
町内での様々なイベントもあるが、姉妹都市を通じたイベント等で全国へ本町の水産資源をアピールしていく。

問 水産業の活性化を促進することで、町全体の活気を上げていくことも可能と考える。水産業の活性化イコール我がまちの活性化の実現についてどのように考えるか

町長 気候の変動により獲れる魚種が変化している。漁業者の安定した漁家経営を考えると、将来に向け、陸上養殖や栽培漁業など新しいことに挑戦する必要があると考えている。挑戦するにあたっては、漁組や関係機関との連携が必要であり、各機関と手を携えて取り組んでいく。

**問** ユニバーサルデザイン化の  
まちづくりを進めるべきでは

**答** 関係課と協議し進めていく



森 哲也議員

**問** 公営住宅等長寿命化計画見直しの進捗状況は

**町長** 建て替え対象の西・緑ヶ丘・旭ヶ丘団地の入居者に説明会を行い、早期建設に向け意見を交わした。見直し計画について北海道と最終協議を進めており、年度内の策定を目指している。

**問** 計画案では美園団地の建て替えが予定されているが、今後の見通しは

**答弁** 美園団地の平屋住宅は老朽化が著しく募集を停止している。建て替えは令和17年からの計画である。

**問** 借り上げ公営住宅導入に向けての課題点は

**町長** 初の取組となり、需要と供給のバランスを保つ計画管理体制や借り上げ住宅の配置場所によっては、管理が複雑化することなど、懸念される。

**問** 子育て世代の入居機会の拡大として、優先募集枠の設定や収入基準の緩和など行えないか

**町長** ニーズを捉えて取組を進めていきたい。

**問** 公共施設におけるユニバーサルデザイン化及びバリアフリー化の考えは

**町長** 総合計画及び福祉計画では、公共施設等のバリアフリー化の推進を目標に掲げている。今後新設する公共施設や既存施設の改修工事の際に、ユニバーサルデザイン化及びバリアフリー化を取り入れていく。



ユニバーサルデザイン化された白老駅の自由通路

**問** 公民館や生活館などの町民文化施設における利便性及び安全性の向上に対する考えは

**町長** 住民福祉の増進等に供する公共施設は誰もが安心して利用できる環境が望ましいと認識している。各施設管理者は、利用者に対する利便性への配慮や、安全性の確保に努めるなど、きめ細かな維持管理が必要である。

**問** 既存の公共施設の多くは災害時の一時避難所にもなっており、町民の憩いの場でもある。誰もが利用しやすいユニバーサルデザインの考えを踏まえた環境を整えることが重要であり、ユニバーサルデザイン化のまちづくりをするべきでは

**副町長** 今後の優しいまちづくりの観点からも公共施設のユニバーサルデザイン化、バリアフリー化は重要である。

新築等を待つことなく、どのように取り組んでいけるか関係課と協議し、進めていきたい。



佐藤雄大議員

## 問 地域公共交通の 抜本的改革が求められるが

答 町民の声を聞き、幅広い視野を  
持って検討していきたい

問 タウンミーティングは、町内各地区、様々な団体との対話の機会を増やすべきではないか  
町長 一緒にまちづくりを考えたいということで実施した。将来の白老町がどうあるべきか対話をするため、今後は若者の参加も促していきたい。また、各世代別や小規模での開催など工夫をしながら、形を変え、進化させて開催していきたい。

問 10年後は後期高齢者が40%を超え、免許返納者が増える将来が予測されるため、地域公共交通の抜本的改革が求められる。現在のデマンドバスや元気号等の公共交通を個別の事業ではなく、全て一元化して「利便性の高いタクシーのみ」とし、現在の公共交通と同様に安価な額で乗れることを目指すべきではないか

町長 足の確保はタウンミーティングでも町民からの声が多く、デマンドバスの利用率が高いこ

とからもドア・ツー・ドアを望んでいる町民は多いと捉えている。どこの自治体も経験したことのない高齢化の時代が予想されるため、今後は異次元の足の確保策が必要であり、よりしっかりと考えなければならない時期に来ている。公共交通のタクシーへの一元化は大きなハードルではあるが、町民の声を聞きながら、幅広い視野を持って検討していきたい。



各地区・様々な団体との対話の機会を

問 「活動人口」とは、地域に対する誇りや自負心を持ち、地域づくりに生き生きと活動する者と定義されている。人口減少、少子化、高齢化が進んだとしても、まちづくりに参加する人数、「活動人口」を増やしていくことで、稼働率が高いまちの実現が可能であり、白老町独自の地域の価値を作っていくことが重要である。それこそが誰もが幸せを感じるまちの実現につながるのではないかと

町長 町民が実際に生き生きと活動していなければ、まちに活気が出ないと考える。タウンミーティングに参加した町民から「高齢化率が高くても元気なまちを目指そう」と言われ、共感した。このような考えは活動人口と同様に、生き生きとした白老町を作っていく原点になると感じた。現在も課題は数多くあるが、今後もまちづくりにしっかりと取り組んでいきたい。

# 令和5年 定例会及び各委員会 出席状況

昨年1年間（1月～12月）の定例会及び各委員会の出席状況についてお知らせいたします。

任 期		令和5年1月1日から令和5年12月31日 ※2										令和5年11月9日から					令和5年11月8日まで				
会 議 名	委員 数	開 催 数	※3 佐藤 雄大	貳又 聖規	西田 祐子	前田 博之	森 哲也	小西 秀延	長谷川 かおり	氏家 裕治	広地 紀彰	水口 光盛	田上 治彦	前田 弘幹	森山 秀晃	飛島 宣親	久保 一美	吉谷 一孝	大淵 紀夫	及川 保	松田 謙吾
定 例 会 ※1		18	18	18	18	17	18	18	18	18	4/4						18	18	18	18	18
		6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6					
議 会 運 営 委 員 会	7	23	(6/6) 11/11	(2)	(7)	22	23	22	23	(22)	-						-	23	-	21	(22)
		7	7	7	7	-	(7)	(7)	-	7	(7)	7	-	7	-	7					
常 任 委 員 会	総務文教常任委員会	6	4	4	-	-	4	-	4	-	4	-					-	4	4	-	-
		1	1	1	-	1	-	-	1	-	1	-	-	-	1	-					
	産業厚生常任委員会	7	4	-	4	4	-	4	-	4	-	△					4	-	-	4	-
		1	1	-	1	-	1	-	-	1	-	1	1	1	-	1					
	産業厚生分科会	7	2	-	2	2	-	2	-	2	-	△					2	-	-	2	-
	広報広聴常任委員会	13	1	1	1	1	1	1	1	1	1	△					1	1	1	1	(1)
2		2	2	2	2	2	(2)	2	2	2	2	2	2	2	2						
広報広聴小委員会	7	9	5/5	9	8	-	-	-	-	9	1/1					7	-	9	-	-	
	6	1	-	-	-	0	1	-	1	-	1	-	1	-	1	-					
協 議 会	全 員 協 議 会		8	8	8	8	7	8	8	8							8	8	8	8	8
		2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2					
	議 案 説 明 会		5	5	5	5	5	5	5	5							5	5	5	5	5
1		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1						
総務文教協議会	7	4	4	-	-	4	-	4	-	4	-					-	4	4	-	-	
特 別 委 員 会	予算等審査特別委員会	12	2	2	2	2	2	2	2	2						2	2	2	2	(1)	
	決算審査特別委員会	11	3	3	3	2	3	3	3	3						3	3	3	[3]	(3)	
政 策 研 究 会	8	10	10	9	0	-	8	-	10	10	-					9	-	10	-	-	

※1 定例会など各会議の2段書き上段は改選前（令和5年11月8日まで）、下段は改選後（令和5年11月9日から）です。

※2 広地議員の定例会など各会議の2段書き上段の任期は辞職により令和5年2月28日までです。

出席数を○/○と表記しているものは、在職中に開催された回数と出席した回数です。

出席数を△と表記しているものは、在職中に開催されていないものです。

※3 佐藤議員は会派設立による異動があったことから所属委員会が変更しています。

議会運営委員会：令和5年2月3日から5月8日までは委員外議員、令和5年5月9日からは委員

広報広聴小委員会：令和5年1月1日から5月8日まで

出席数を○/○と表記しているものは、委員会所属期間中に開催された回数と出席した回数です。

## 記号の表記

－：委員会に所属していない議員

( )：委員会に所属していないが、委員外議員として出席した議員

## 議会選出監査委員

決算審査特別委員会では、及川議員は監査委員として出席しているため、[ ] 書きとしています。

## 議長の出席

議長は委員会の構成員ではありませんが、全ての委員会に出席し発言することが法律で認められています。

## 定例会11月・12月会議報告

～ 議決結果をお知らせします ～

### 制定する条例

▼特別職の職員で常勤のものとの給与の減額に関する条例

### 一部を改正する条例

▼副町長定数条例▼職員の給与に関する条例及び白老町一般職の任期付職員の採用等に関する条例▼特別職の職員で常勤のものとの給与及び旅費に関する条例（反対 水口議員・前田博之議員）▼議会の議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例（反対 水口議員）▼国民健康保険税条例▼債権管理条例▼港湾施設管理条例▼学校給食費条例

### 廃止する条例

▼介護老人保健施設条例▼介護老人保健施設事業特別会計条例

### 補正予算

▼一般会計（第9・10号）▼国民健康保険事業特別会計（第2号）▼後期高齢者医療事業特別会計（第1号）▼介護保険事業特別会計（第2号）▼介護老人保健施設事業特別会計（第1号）▼水道事業会計（第1号）▼国民健康保険病院事業会計（第2号）

## 人事（選任同意）

▼副町長 大黒克己（63歳・末広町）  
▼教育委員会委員 野瀬征宏（53歳・字石山）  
▼固定資産評価員 大黒克己（63歳・末広町）

## 指定管理者の指定

期間はいずれも令和6年4月1日から令和11年3月31日まで

▼しらおい経済センター（白老町商工会 会長 熊谷威二）

▼白老ふるさと2000年ポロトの森（一般社団法人白老観光協会 会長 福田茂穂）

▼北吉原ふれあいプラザ（北吉原ふれあいプラザ管理運営委員会 委員長 渡辺雅文）

## 報告

▼専決処分（一般会計補正予算（第8号））

▼例月出納検査結果

## 発議案等

▼議員の派遣承認

## 意見書

▼医療・介護・障害福祉分野における処遇改善等を求める意見書  
▼認知症との共生社会の実現を求める意見書

## 編集後記

昨年10月に行われた白老町議会議員選挙では、地方政治の時代に政治の衰退と思われる無投票当選が増加し議員のなり手不足が深刻化している中、定数14名に対し新人5名を含む16名が立候補。激戦の中、町民の審判を受け新たな議会が始動した。12月の定例会では新人議員全員を含む12名が一般質問に立ち、町民の声を政策に反映するべく活発な議論が交わされた。

議会は、町長と町議会議員を町民が直接選挙で選ぶ二元代表制の「議決機関・議事機関」であり、町長（執行機関）が提案する各種条例、予算などを審議・議決する。これからもまちの発展のために互いに対等な立場で議論を重ねていきたい。また、私たち議員は町民の代表としての意識をより強く持つて町民の多様な声を聞き、「開かれた議会」として取組を進めていく。

このたび、令和6年能登半島地震で犠牲になられた皆様に謹んで哀悼の意を表しますとともに、被災された皆様に心からお見舞い申し上げます、一日も早い復興を祈念いたします。

（1月12日記 長谷川かおり）